

Vol
193

政治の動きで一喜一憂？ 今改めて、長期投資の視点を！

今年1月に発足した第2次トランプ政権。就任直後から次々に大統領令に署名し、連日その動向がニュースでも大きく取り上げられています。コールセンターでも、トランプ政権の政策がファンドの運用にどのような影響を与えそうかといったご相談をいただく機会が増えています。特に関税引き上げの報道があった2月初めには、日経平均株価が大きく下落したために心配する声も多く寄せられました。

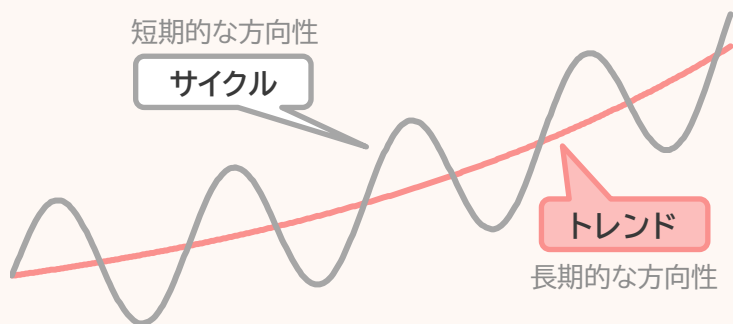


確かにこうした政策が世界経済に影響を与えていることは事実ですが、そうした中でも皆さまに持っていただきたいのは「長期投資の視点」。一時的な変化に一喜一憂するのではなく、長い目で資産の成長を期待しながら投資を継続していくことが重要です。今回はそのために押さえておきたいポイントについて考えていきたいと思います。

それはトレンド？それともサイクル？

長く資産運用を続けるためには「気にしない」心構えが必要です。しかし、そうは言っても日々のニュースは気になるし...という気持ちも分かります。ここで押さえておきたいのは、経済が成長していく過程には、長期的な方向性を示す「トレンド」と行ったり来たりする「サイクル」があるということ。

■＜経済成長のイメージ＞トレンドとサイクルの関係



＜トレンドの例＞

- ・デフレからインフレへの転換
- ・金融危機からの正常化 など

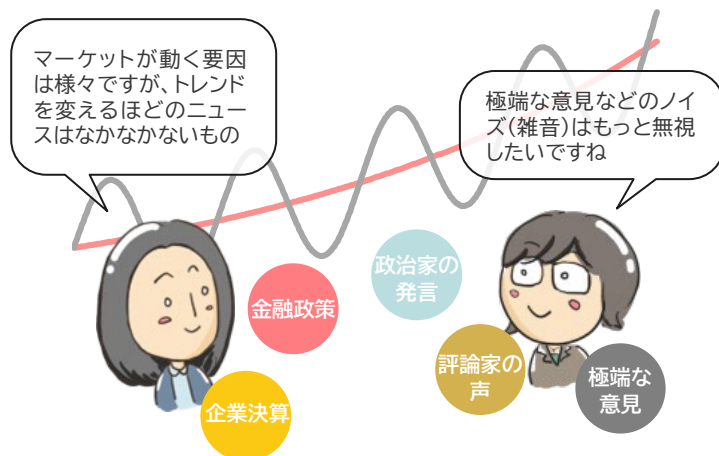
＜無視したいサイクルの例＞

- ・毎月の経済統計
- ・在庫や生産動向
- ・企業景況感
- ・政治混乱や紛争
- ・景気対策 など

※上図はイメージです。

「トレンド」は、滅多なことでは変わらない経済の大きな流れのことを指しています。デフレからインフレへの転換や金融危機からの正常化など、人々の努力と工夫で私たちの生活がよくなっていく大きな川の流れのような動きです。世界の産業のロボット化や宇宙開発なども強いトレンドといえるでしょう。一方「サイクル」は、例えば毎月の経済統計や企業景況感、冒頭に見た政治の動きなどで引き起こされる短期的な上下動のこと。「サイクル」は目につきやすいので、つい気になってしまいがちです。

しかし、そんな上下動を繰り返しながら、経済はずっと右肩上がり成長を続けてきました。この大きな「トレンド」を捉えて、ほかの事象は「サイクル」だと割り切っていくような大局観を持つことが長期投資を続けるための大切なポイントになりそうです。

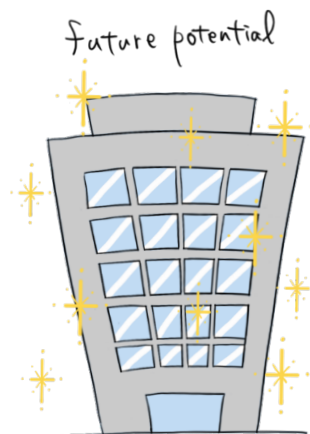


長期的な成長力に注目する

「サイクル」や、もっと取るに足らない「ノイズ(雑音)」にとらわれてしまうとどうなるでしょう。例えば報道を聞いて株価が下がることを恐れ、保有している株を売却してしまう...ということもあるかもしれません。すると、市場が回復した場合には、結果として「安値で売って、高値で買い戻す」ということにもなりかねません。

しかし「企業の長期的な成長力」に注目して見極めることができれば、こうした「サイクル」や「ノイズ」にも落ち着いて対処できるはずです。

例えば、高い技術力や先見性の高さなど、その企業自体に大きな魅力がある場合、たとえ短期的には政治イベントなどの影響を受けても、長期的には成長していくでしょう。投資先を考えると「10年後も成長が期待できる企業／産業か」を意識するのがよさそうです。

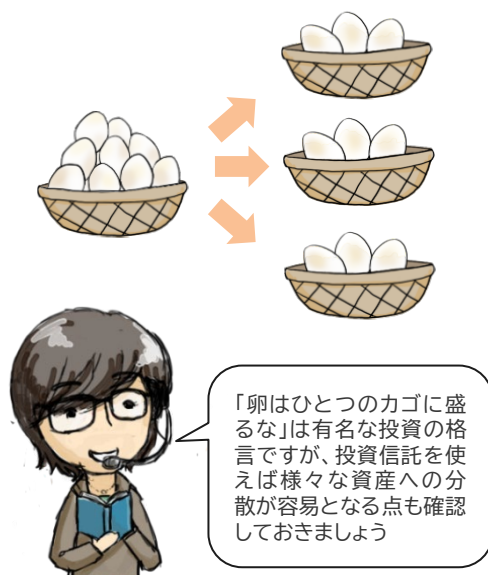


長期の資産形成に、リスクを抑えた設計を

そうは言っても、「ここは確実に成長する！」という読みが当たるとは限りません。投資先を特定の銘柄に集中させて、予想と逆の動きとなった場合には大きな損失となる可能性があります。「気にしない」姿勢で長期の資産形成を図るには、「気にしないでいられる」ための環境作り、つまりリスクの分散が必要です。そして投資信託を活用することで、簡単に分散投資を取り入れることが可能です。

特定の指数に連動するように設計されているインデックスファンドであれば、市場を構成する銘柄に広く分散投資することができますし、複数の資産に投資をするバランスファンドを活用してリスクの低減を図るのもよさそうです。また、先に挙げた成長産業への投資であれば、その産業をテーマにしたアクティブファンドを活用することでプロの目利き力で選ばれた複数の銘柄に分散投資することが可能になります。

「長く付き合うための1本」という視点で、ぜひご自身にあった投資信託を探してみてください。



最後に

今回は目先の政治イベントなどに左右されずに、長く資産運用を続けていくための考え方についてお伝えしました。投資信託も活用しながら、ゆったりとした気持ちで資産運用に取り組んでみてください。

